

## ～19世紀中期の靴～

—日本はきもの博物館所蔵—

1850年頃、フランス。

アイボリーのシルク・サテン製。劣化して伸縮性を失っているが、両サイドにゴム入り布、フロントにはシルク・リボンのバラ飾りが付く。履き口の前後に取手になる幅1.2cmのテープ。わずかに左右の違いがある。長23.8×幅6.2×全高15.0cm、ヒール高2.5cm。



1870年頃、フランス。

深緑色のベルベット製。シルク糸の立体的な刺繍が施され、折り返しや裏打ちはピンク・シルクのキルティング。フロントの編み上げ紐の先端にはフリンジ。長23.9×幅5.8×全高15.8cm、ヒール高4.1cm。

1875年頃。

グリーン系ストライプのシルクに花柄刺繍が施される。裏打ちは白シルクで内底には茶レザーを敷く。9個の金色ボタン留め。ミシン縫いであるが、ボタンホールは手縫い。左右の違いあり。長22.2×幅6.8×全高22.3cm、ヒール高5.0cm。

